

先進校に学ぶキャリア教育の実践

主体的に人生を切り拓いていく力の スパイラル的な成長を促す「探究ナビ」

大阪府教育センター附属高校 (大阪・府立)

大阪府教育センター附属高校は、キャリア教育を軸にした「探究ナビ」のプログラムを構築、実践しています。3年間の実践内容はもちろん、形骸化させないための工夫や、体験的な学習の評価の仕方など、キャリア教育の充実を目指す幅広い学校へのヒントが詰まった事例です。

取材・文／藤崎雅子

実践のKeyword

🔍 教育センターとの連携 🔍 演劇プログラム 🔍 地域フィールドワーク
🔍 課題解決学習 🔍 ルーブリック評価

新たな学びを創造し 大阪府の教育を先導する学校

大阪府教育センター附属高校は、大阪府の教職員の研修や教育に関する調査・研究を行う大阪府教育センターと連携し、新たな学びを創造する学校として、2011年に誕生した。同校の役割について校長の坂井啓祐先生はこう語る。

「知識や技能を活用して課題を探究する力の育成を重視し、アクティブラーニング型の授業への転換など、新しい手法を積極的に取り入れています。そうした先進的な教育について研究・実践を行い、その成果を発信し、他の府立高校をリードしていくのが本校の重要な役割です」

そんな同校の教育の柱に位置づけられているのが、教科横断型の学校設定教科「探究ナビ」。自己の可能性を最大限引き出して将来につなげる、キャリア教育を軸にした3年間のプログラムだ。文科省により教育特別校の指定を受け、「総学」に代えて各学年2単位で実施している。

3年間の「探究ナビ」の目標は、「自らの進路を切り拓くことができる人材の育成」だ。立ち上げ時から担当してきた探究科主任の山元聡先生は、「職業生活という狭義のキャリアではなく、生活全般を指すライフ・キャリアを豊かにするために実施しています」と強調する。

そのような視点に立ち、1年生で人とつながるコミュニケーション能力を身に付け、2年生は社会と自分との関わりへの関心を高め、3年生は未来を見据えて

主体的、創造的な課題解決に取り組みという、3年間のプログラムを設計(図1)。同校のシンボル「学びのクローバー」(図2)に配した4つのキーワード「発見、探究、感動、自信」を繰り返し体験しながら、スパイラル状に成長していくことを意識して実践している。

演劇手法も取り入れ 人間関係を形成

「探究ナビ」のプログラムは、山元先生の統括の下、毎年度、各学年担当者が学年目標や生徒の状況に合わせて常に新しさを取り入れながら設計している。具体的な内容について、今年度の計画を見ていこう。

1年生の「探究ナビ」のテーマは、「生きる力の基礎となるコミュニケーション能力の育成」だ。1学期は「クラスの全員と話す」「肯定的に受け止める」などのワークショップを通じて、一人ひとりが安心して自己表現できるクラスの場づくりを行う。その上で2学期以降、「仕事調べ」や「演劇プログラム」など、グループ活動に取り組み。「自分中心の表現から、相手がどう感じるか・どう受け止めるかに配慮した相手中心の表現へ——段階的にさまざまなコミュニケーションの形をテーマにすることで、自分を変えていく力も育みたいと考えています」(探究科担当・酒井将平先生)

1年生で特に生徒へのインパクトが大きいのが、年度終盤に取り組み「演劇プログラム」だ。8〜9人のグループが力を合わせて5〜10分の作品を制作し、自ら演



School Data

2011年設立／普通科
 生徒数837人(男子365人・女子472人)
 進路状況(2016年3月実績) 大学134人・短大16人
 専門学校82人・就職16人・その他31人
 大阪市住吉区苅田4-1-72
 TEL 06-6692-0006
 URL <http://www.osaka-c.ed.jp/partner/>

Outline

2011年、府立大和川高校の敷地を受け継ぎ設立。隣接する大阪府教育センターの研究・研修機能と直結し、同センターと連携して教育活動を実践することにより、大阪府の教育課題の解決に資する役割をもつ「ナビゲーションスクール」。教育課程特例の指定を受け、学校設定教科「探究ナビ」を設置。文科省「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」(平成28年度)実践研究校。

図1 「探究ナビ」の概要(2017年度計画)

ねらい：自らの進路を切り拓くことができる人材の育成			
	探究ナビⅠ (1年生)	探究ナビⅡ (2年生)	探究ナビⅢ (3年生)
学年 テーマ	コミュニケーション力	社会とつながる	社会の一員として課題を主体的、 創造的に解決する
学習の 到達目標	さまざまな事柄・出来事などに積極的に興味をもち、気付いた(発見)疑問・不思議に対しての解決意欲を掻き立て、解決してゆく姿勢(探究)を身に付ける。その研究・学習結果に満足し、あるいは一層の学習を深めることで、新たな結果を獲得することの驚き・喜びを感じる(感動)など、肯定的なスパイラルに巻き込まれていることを実感でき、新たな発見を求め自信をもって次の課題にチャレンジしてゆく姿勢を獲得できる。	さまざまな事柄・出来事などに興味をもち、積極的に関わり、その課題に気付き(発見)、アンケートやインタビュー、文献研究やネット検索など計画的に調査を深め(探究)、新たな結果を獲得することで、新たな事象を発見する(感動)。研究結果を多面的・多角的に分析し、共同して整理、推測することで、発表(発信)する。周囲に影響を与えるとともに、新たな発見を求め、自信をもって次の課題にチャレンジしていく。	「起業」「2045年問題」についての基礎知識を理解し、さまざまな事柄・出来事など興味をもったテーマについて(発見)多方面からの検証方法を考え、調査・研究し、論議を決定する(探究)。望ましい解決方法を目指し、文献、ネットなどでの研究をし、レポートとしてまとめ(感動)最適な発信方法を考えてプレゼンテーションを行う。さらに将来を展望し、建設的に創造力を発揮し、周囲を巻き込んでいくことを実感でき(自信)、社会の一員としての自覚を深め、将来への自信をもって社会人基礎力を身に付ける。
評価の 観点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観る力、聴く力 ○ 自分を変える力 ○ 表現する力 ○ 協働する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気付き・感じる力 ○ 多面的・多角的に考える力 ○ 関わる力 ○ 計画する力 ○ 協働する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企画する力 ○ 望ましい解決をめざす力 ○ 発信する力 ○ 進路を切り拓く力
主な プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス開き ・ 表現できる場作り ・ 適性検査を利用した自己理解 ・ コミュニケーション(1対1/1対複数/協働性を育む など) ・ 自然史博物館学芸員による講義 ・ 仕事調べ ・ 演劇プログラム など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ あびこ探検(地域フィールドワーク) ・ 適性検査を活用した「自分探し」 ・ 探究スキルの学習(インタビュー/アンケート作り/資料活用) ・ 分野別グループ活動(フィールドワーク/調べ学習/発表) ・ The Money(お金の使い方について) など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業を考える(個人) ・ 2045年問題を考える(外部講師による講義/まとめ発表) ・ 2人探究 ・ 起業をテーマにした課題研究(グループ) など

2年生「探究ナビⅡ」のテーマは、「自然・社会とのかかわりへの関心を高め、課題を探究する能力・態度を育成する」こ

身近な社会に目を向け 課題に気付く経験を

藤林則孝先生)
 身で学びとっていきます」(探究科担当・
 し合いをうまく進めるコツを自分たち自
 との大切さやメモを取る必要性など、話
 労しながら、相手の発言を否定しないこ
 徒がたくさんいます。しかし、チームで苦
 ループや、演じることを恥ずかしがる生
 があります。最初はなかなか進まないグ
 じで発表する。最初に設定されているの
 は、「内容にこれまでの『探究ナビ』の取
 り組みを盛り込むこと」のみ。あとは自
 由で、テーマもシナリオも生徒がゼロから
 作る。この目的は、上手に演じることで
 はないという。
 「チームでコミュニケーションを取って1
 つの物を作り上げていくプロセスに意味
 があります。最初はなかなか進まないグ
 ループや、演じることを恥ずかしがる生
 徒がたくさんいます。しかし、チームで苦
 労しながら、相手の発言を否定しないこ
 との大切さやメモを取る必要性など、話
 し合いをうまく進めるコツを自分たち自
 身で学びとっていきます」(探究科担当・
 藤林則孝先生)

図2 大阪府教育センター附属高校のシンボル「学びのクローバー」



pick up

演劇プログラム

自らの演劇公演のほか小中高生に向けたコミュニケーションワークショップも取り組む団体「劇団衛星」による指導を受けながら進める。



自分たちだけでやっている課題は見えにくい。グループ間で演劇を見せ合ったりアドバイスをもらい、修正しながら上げていく。

「探究ナビI」の振り返りコメントより

- 私が一番、苦戦したのはこのテーマ（演劇）でした。（中略）消極的で参加してくれない人もいたし、自分なりにがんばられる人もいたし、いろいろな性格の人がいるなかで、自分がどれだけががんばれなかったか実感しました。もっと自分が一番、積極的にできるようにになりたいと思いました。
- 中学生の頃は、自分はおとなしくて、人とあまり話さなくて、自分の意見も言わなかったです。だけど、この学校の1年になって、この「探究」の授業のおかげで友達がたくさんできて、自分からも意見とか話せるようになりました。
- 自分の考えを単に伝えるだけでなく、（中略）私はこの授業を通して「相手の話をしっかり聞く」「自分の考えをわかりやすいように考えて話す」の2つを目標にしていました。自分のなかでは少しは達成できたと思うけど、2年でもっとがんばろうと思いました。
- 人と協力する力が一番、身に付きました。今までは、自分さえよければなんでもいいという自己中心的な考えをしていたけれど、人の意見も聞いて協力した方が何倍もおもしろいし、楽しいということに気が付きました。これからも人と協力し合って楽しもうと思いました。

とだ。地域の魅力を調べる「あびこ探検」や、歴史・福祉・防災のテーマ別フィールドワークを経て地域社会に対する提言を行う「分野別調べ学習」など、社会と絡めたプログラムになっている。また、インタビューやアンケート、資料活用などの探究活動に必要なスキルの学習も行う。1年生でも調べ学習は行うが、その調べ方や発表方法に求めるレベルは上がる。「1年生の仕事調べは調べたことを発表できるだけでOKです。しかし、2年生では、調べた内容をしっかりと自分のなかに落とし込んで、それについて意見を言えるようになってほしい」（藤林先生）

さらに、自ら意見を発することによって周囲を「巻き込む」という動きも期待する。「あるグループが障害者マークが付いているのに狭い公衆トイレを見つけ、車いすでも使用しやすいような改善を提言したところ、すぐ対応されたということがあ

「2045年をどう生きる？」過去を踏まえて未来を考える

3年生「探究ナビIII」のテーマは、「社会の二員として主体的、創造的に課題を解決する力の育成」。3年間の総まとめとして、未来に関することを題材とした課題研究がメインとなる。昨年度からは「起業するならば？」という設定で、これからの社会に役立つ新しい商品やサービスの企画・立案に、1学期は個人、2学期はグループで取り組んでいる。さらに今年度は、コンピューターの性能が人間の脳を超えること予測される「2045年問題」の視点も盛り込み、より具体的な未来像を描かせる予定だ。

視野を広げる経験を基に進路に向き合う

新設校として進路実績も注目されるなか、初期の「探究ナビ」は短期的な進路実現のための指導と、長期的な視点に立ったキャリア教育との間で揺れていたという。目前の出口を優先し、3年生のプログラムに補習を入れたこともあったが、「うまくいったとはいえない」と山元先生は振り返る。

「この子らの人生が豊かになるように、先を見通したプログラムという筋を通すべきの思いを強くしました。それは正解なのか？なぜ正解なのか？といった問いにじっくり取り組めるのは、「探究ナビ」の時間だけですから」（山元先生）

現在はそうした軸を堅持しながら、進路指導部と連携している。「探究ナビ」のプログラムに、「適性検査」「ものづくり講座」「オープンキャンパス指導」など進路指導部主導の内容も挿入。協働性を重

pick up

「起業を考える」



3年生になると、それまで学んだ演劇の手法やプレゼンテーション資料作成の方法などをフル活用して発表を行う。

最優秀賞を受賞した「かさばらない2つ穴用バインダー」を考案したグループのレポートより

今回の発表は、私たちに「人脈」の大切さを教えてくれた。最初の私たちは個人の意見のみの「考え」を交換し商品を作っていた。しかしアンケートを通じてさまざまな人の「意見」「想い」「考え」を感じ、私たちの商品に対する考え方は一変した。さまざまな人から意見をもらうことによって、物事や商品を様々な視点から考えられるようになったのだ。「買い手」や「聞き手」の想いも踏まえて考えられるようになった。それが「人脈」を通し、私たちが学び成長できた最大の点だと考える。そして、その成長点から様々な人の意見を反映させ、より精度の高い商品を考えられた。私たちはこの発表が私たちだけの力で出来たとは考えない。様々な人々の力があってこそ完成したものだと思える。そういう「考え方」が探究活動で得られたものである。



進路指導部
森本多美子先生



進路指導部部长
石坂美枝先生



探究科担当
酒井将平先生



探究科担当
小山真弘先生



探究科担当
藤林則孝先生



探究科主任
山元 聡先生



校長
坂井啓祐先生

図3 「探究ナビ」のルーブリックの例

(グループ発表に対するケース)

評価	S	A	B	C
発表の明確さ	理解したことに基づき、新たな状況を推測している。	例が適切で、聴衆が自分の事に置き換えて考えられている。	用語や概念は正しく理解され、論理的で、筋が通っている。	調べたことの連絡に過ぎない。
ICEのレベル	Extensions 応用	Connections つながり	Ideas 考え	—

※ICEモデル：問いに対する答えからIdeas(考え)、Connections(つながり)、Extensions(応用)のどの段階に在るかを評価する視点

視する授業の一環として進路学習の一部を行うことで、他の生徒の情報や意見も取り入れながら、広い視野をもって進路を考えられるようになっていくという。

進路状況を見ると、開校以来、大学進学人数が増加傾向にある。その数字以上に変化があったのが、進路実現に向けて生徒の行動だという。「宿題として強制しなくても自らオープンキャンパスに参加するようになった」(進路指導部・森本多美子先生)など生徒の積極的な行動が目立つようになり、明確な目標をもつて進路選択する生徒が増えている。

「初期は優秀な生徒が個別にがんばっている印象でしたが、今はみんなで支え合っているのが強くなっています。それは入学する生徒の質が変わったからではなく、「コミュニケーション」を重視する『探究ナビ』の取り組みの影響が大きいのではないで

ようか」(進路指導部部长・石坂美枝先生)

ICEを使ったルーブリックで評価

「探究ナビ」は学年末に5段階で成績評価を行う。学年ごとに「観る力・聴く力」「協働する力」など身に付けさせたい力4〜5項目を評価観点として設定し、学習単元ごとに評価を実施。年間を総合して成績をつけている。

同校は13年から3年間、文科省より「高等学校における多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」の指定を受け、幅広い資質・能力についての評価の手法・指標の調査研究に取り組んだ。「探究ナビ」においても、試行錯誤しながら新たな手法に挑戦。16年度からICEモデル(※)を用いたルーブリックによる質的な評価に取り組んでいる(図3)。

「生徒が書いた振り返りの文章を読むと、ICEのどの段階にあるかを見る方法です。読み取れるようになるまで時間はかかりましたが、計量的ではなく質的な見方ができるようになってきていると思います」(山元先生)

「探究ナビ」の経験を各自の授業改善に生かす

「探究ナビ」を立ち上げて6年。いかに形骸化させず効果的に実践し続けるかは、授業者によるところが大きいだろう。現在、「探究ナビ」の授業を行うのは各クラスの担任・副担任だ。目標がぶれたり

指導方法がずれたりしないよう、月1回程度は授業担当者が集まって打ち合わせを実施。さらに、「コミュニケーション」をテーマにする1年生は、ちょっとした言動や対応で生徒の表現を妨げる可能性があるので慎重にやっていきたい」と、1年生を担当する酒井先生は全クラスの「探究ナビ」に参加して、担任・副担任と役割分担しながら進める予定だ。

立ち上げ初期は3人の担当教員が全クラスの「探究ナビ」を行っていた。それをあえて拡大したのは、他の教員も講義型ではない「探究ナビ」の視点や授業ノウハウを身に付け、それぞれの教科の授業にも生かしてもらおう意図がある。実際、「探究ナビ」の経験がきっかけになって、自教科の授業に演劇の手法やICTを取り入れた教員も少なくない。生徒もそうした授業スタイルに慣れているため、スムーズにいくという。さらに、「本校で実践した

ことを次の異動先の学校でも実践し広めてほしい」と、坂井校長は期待する。

探究科担当には若手の教員が就き、ベテランの山元先生が見守るなか、独自性を発揮して挑戦している。後続の担当者を受け継いでいきたいことについて、山元先生はこう語る。

「生徒一人ひとりを信じる。彼らは成長したいと願ってこの学校に来ています。その気持ちを基本として授業にあたれば、生徒は必ず伸びるはず」

全国的にも珍しい成り立ちの学校だが、その取り組み内容は他校が真似できない「特別」なものではない。週2時間のプログラムではあるが、「部分的に切り取って参考にしてもらうこともできるのではないか」と坂井校長。府立高校のみならず、新たな学びを目指す学校にはヒントが多い事例といえそうだ。

Interview

自分の殻を破って積極的に行動できるように

他の学校にはない「探究ナビ」の授業と、部活が楽しそうだったことに惹かれて、この学校に入学しました。僕は中学生の頃から将来は看護系の仕事に就きたいと思っていたのですが、「探究ナビ」で仕事内容や「なるには」を詳しく調べ



生徒会会長・3年生 飯尾悠華さん(写真左) / 生徒会執行部・2年生 飯野竜輝君(同右)

たことで、簡単には就けないことがわかりました。しっかり勉強しなくちゃいけない、と。それで火がついて、今は中学時代よりも勉強をがんばっています。(飯野君)

私は人前で何かを発表するのは苦手なタイプだったので、「探究ナビ」は楽しみでもあり、不安でもありました。一番印象に残っているのは1年生の「演劇」です。最初は難しかったのですが、だんだん「こうやりたい」とみんなに伝えられるようになり、声が小さく小さかった私も大きな声が出せるようになりました。こうした「探究ナビ」で自信が付き、生徒会に入る勇氣も出せました。2年生の後期からは会長となり、マナーアップ運動を新たに立ち上げたり、学校をよくするために活動しています。(飯尾さん)